

ウスメバル放流種苗作出試験（小泊・下前）

（要 約）

鈴木亮

目 的

流れ藻に付随して陸奥湾内へ移動してきたウスメバル稚魚を採集し、放流適サイズまで中間育成し、種苗放流による資源造成の可能性について検討する。

材料と方法

1. ウスメバル稚魚の採集

平成 27 年 5 月 20 日から 6 月 11 日に、陸奥湾内の青森市奥内及び後潟地区のホタテガイ養殖施設 37 箇所に設置した、海藻（アカモク 1 種）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップに集まったウスメバル稚魚をタモ網で採集した。

2. 放流用種苗の作出

採集したウスメバル稚魚を、当研究所の角型 15 トン水槽 2 面で、平成 27 年 6 月 1 日から 10 月 21 日まで中間育成し、放流用種苗を作出した。

結果と考察

1. ウスメバル稚魚の採集

ウスメバル稚魚を 5 月に 40,000 尾、6 月に 5,000 尾の計 45,000 尾を採集し、このうち 30,000 尾を放流用種苗の作出に用いた。

2. 放流用種苗の作出

放流用種苗の作出結果について表 1 に示した。

中間育成を 143 日間行い、生残率 98%、29,400 尾の放流用種苗を作出した。作出した種苗は小泊、下前漁協に運搬し、一部中間育成後に放流された。

平成 27 年 10 月 7 日に小泊漁協、8 日に下前漁協へ、平均全長 56.5mm、平均体重 2.5g の無標識の放流用種苗各 10,600 尾を搬出した。小泊漁協は運搬したその日に漁港内へ全数放流した。また、下前漁協は更に 1 か月間陸上水槽 1 基で中間育成を行い、12 月 14 日に漁港内へ全数放流した。

平成 27 年 10 月 22 日に、小泊及び下前漁協それぞれへ、標識として左腹鰭を抜去した平均全長 64.5mm、平均体重 3.9g の種苗 3,300 尾及び同サイズの無標識魚 800 尾、計 4,100 尾を運搬し、漁港内に放流した。

表 1 放流用種苗の作出結果

機関	中間育成 開始日	収容尾数 (尾)	収容開始サイズ		中間育成 終了日	取上げ尾数(尾)		取上げ時サイズ		標識放流		
			平均全長 (mm)	平均体重 (g)		1回目搬出(上) 2回目搬出(下)	合計 尾数	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	標識種類	尾数	場所
小泊漁協	H27.6.1	15,000	25.4	-	H27.10.7	10,600	14,700	56.6	2.5	-	-	小泊漁港
					H27.10.21	4,100	64.5	3.9	左腹鰭抜去	3,300		
下前漁協		15,000			H27.10.8	10,600	14,700	56.6	2.5	-	-	下前漁港
					H27.10.21	4,100	64.5	3.9	左腹鰭抜去	3,300		